



株主の皆さまへ

第 **118** 期

中間報告書

2017年4月1日 » 2017年9月30日

V a l u e &
Q u a l i t y



日本バルカー工業株式会社
NIPPON VALQUA INDUSTRIES, LTD.

証券コード：7995

THE VALQUA WAY

基本理念

VALUE & QUALITY

(価値の創造と品質の向上)

4つの
経営理念

- ・ 社会の発展のために
- ・ 正正堂堂と
- ・ 世界中のステークホルダーへ
- ・ 独創的技術で

行動指針
10項

- 1 事業を通じた社会への貢献
- 2 顧客感動の提供
- 3 人格と個性の尊重
- 4 株主との信頼関係の構築
- 5 地域社会との共生
- 6 安全衛生は全てに優先
- 7 コンプライアンス遵守と誠実な行動
- 8 環境にやさしいモノづくり
- 9 資産の保全と有効活用
- 10 チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり

VALUE & QUALITY

価値の創造と品質の向上

ごあいさつ

株主の皆さまに第118期中間報告書をお届けします。

当中間期における日本経済は、半導体・自動車・産業機械に関連する企業を中心に製造業がけん引役となり、緩やかな拡大傾向を示しました。

その一方で、個人消費は勢いを欠く状況が続き、好調な製造業においても先行きには慎重な見方が広がるなど、危うさもうかがえる展開となりました。

また海外においては、新興国経済に持ち直しの動きが見られたものの、地政学的リスクがさらに大きくなるなど、不透明感が拭えない状況となりました。

このような事業環境下でありまして当社グループは、最終年度となる第7次中期経営計画“New Valqua Stage Seven (NV・S7)”で掲げた戦略の完遂に向けて足許の収益拡大と施策の速やかな実行を図り、加えて、将来の持続的成長を実現するための企業基盤の整備・強化を推進しました。

“NV・S7”の仕上げとなる当期、当社グループは、全社員が改めて企業理念“THE VALQUA WAY”を強く意識し、その精神に基づいた企業活動を行うことにより、株主の皆さまのご期待とご信頼に応えてまいります。

平成29年12月

代表取締役社長 兼 CEO

龍澤 利一



シール製品事業

売上高 **15,830** 百万円
売上高構成比 **68.0** %



事業概況

先端産業市場に向けた販売の伸長に加え、機器市場やプラント市場に向けた収益拡大策の効果等により、売上高は158億3千万円(前年同期比13.3%増)、セグメント利益は24億1千5百万円(同73.1%増)となりました。

今後の展開

バルカーグループのコア事業として、海外展開の加速を図るとともに、シールエンジニアリングサービスの提供を通じた顧客接点の強化を行い、業績の拡大を図ってまいります。

機能樹脂製品事業

売上高 **6,054** 百万円
売上高構成比 **26.0** %



事業概況

機器市場・プラント市場販売の拡大により、売上高は60億5千4百万円(前年同期比10.8%増)となったものの、原料価格上昇やのれん償却の計上等により、セグメント利益は1億8千5百万円(同44.6%減)となりました。

今後の展開

海外市場に向けて業容の拡大を行うとともに、国内においても新たな分野へ果敢に挑戦し、ノンシール分野の中核事業として成長を図ってまいります。

事業概況

前年同期に寄与したシリコンウエハーリサイクルの特殊案件の剥落が影響し、売上高は13億9千4百万円(前年同期比17.3%減)、セグメント利益は1億3千8百万円(同19.0%減)となりました。

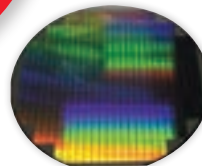
今後の展開

シリコンウエハーリサイクル事業における収益力の強化に加え、H&S(ハード&シールエンジニアリングサービス)事業の業績化を速やかに図り、新たな価値創造を具現化してまいります。

連結売上高
23,278
百万円

その他事業

売上高 **1,394** 百万円
売上高構成比 **6.0** %



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期累計期間 自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日	当第2四半期累計期間 自 2017年4月 1日 至 2017年9月30日
売上高	21,127	23,278
売上原価	13,674	14,635
売上総利益	7,452	8,643
販売費及び一般管理費	5,551	5,904
営業利益	1,901	2,739
経常利益	1,685	2,789
税金等調整前四半期純利益	1,410	2,726
親会社株主に帰属する四半期純利益	857	1,899

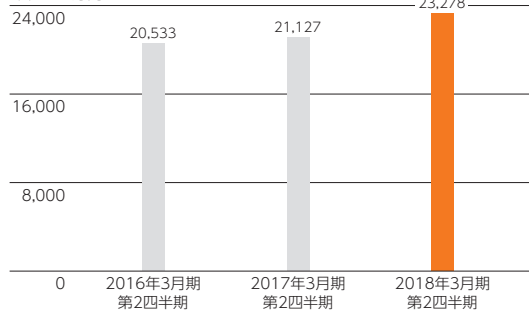
四半期連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前期末 2017年3月31日	当第2四半期末 2017年9月30日
資産の部		
流動資産	25,026	25,784
固定資産	21,602	20,919
繰延資産	22	18
資産合計	46,651	46,722
負債の部		
流動負債	11,632	10,963
固定負債	4,168	4,012
負債合計	15,801	14,975
純資産の部		
株主資本	27,316	28,418
その他の包括利益累計額	1,955	1,802
非支配株主持分	1,577	1,526
純資産合計	30,849	31,747
負債純資産合計	46,651	46,722

売上高

単位：百万円

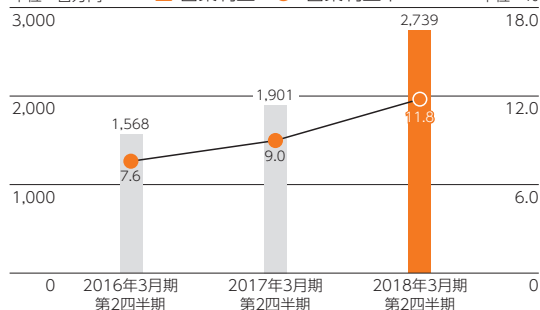


営業利益 / 営業利益率

単位：百万円

■ 営業利益 ● 営業利益率

単位：%



配当

	中 間	期 末	年間配当
2016年3月期	6.0 円	6.0 円	12.0 円
2017年3月期	6.0 円	45.0 円	—
2017年3月期期末配当金の内訳 普通配当30.0円 創業90周年記念配当15.0円			
2018年3月期	40.0 円 (予想)	40.0 円 (予想)	80.0 円 (予想)

※株式併合のご案内

当社は、2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施いたしました。2017年3月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合を反映した配当額であります。なお、期中に株式併合を実施したため、年間配当金合計は、「—」として記載しております。

独創的設計技術で顧客の課題解決に貢献

— LFR回転継ぎ手、誕生 —

各種機器の回転軸周辺の摩擦軽減は“機械工学永遠のテーマ”とも言われていますが、液体に対する密閉性への要求が加わると、技術的なハードルはさらに高くなります。

バルカーは、その難易度の高いテーマに対する回答として低トルク回転シール“LFR”を開発、主に産業機器の顧客向けに提供してきました。

このたび販売を開始した“LFR回転継ぎ手”は、薬液・油圧作動油・冷却水などを回転体に送るための機器“回転継ぎ手”の内部にLFRを組み込んだ製品です。

LFRを採用することで低い回転抵抗と高いシール性を両立させ、機器の性能向上とメンテナンスコストの低減に寄与します。

顧客の現場における課題をヒアリングするなかで、その解決を図るために誕生した“ソリューション型製品”である“LFR回転継ぎ手”。産業機械やロボットなど幅広い分野の機器で活躍することでしょう。



回転継ぎ手（イメージ画像）。赤い丸の個所にLFRが使われています



LFR断面図。複合素材の採用と特殊形状により優れた性能を発揮します

グローバル市場での需要拡大に対応

— ライニングタンク、供給体制拡充 —

生活のあらゆるシーンにおいて浸透しているIT、その心臓とも言えるのが半導体です。私たちのくらしは最早半導体なしでは成り立たない、としても過言ではありません。

半導体の製造工程はITの進化と同時に技術的な革新を続け、工程で用いる薬液やガスもより高い水準の純粋性が求められてきました。

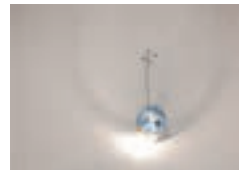
その純粋性を保つのに欠かせないのが、金属タンクの内面にふっ素樹脂シートを内張り施工した“ふっ素樹脂ライニングタンク”です。

バルカーは、従来、主に台湾で半導体製造ライン向けライニングタンクを生産してきましたが、旺盛な需要と今後の拡大に対応するため、供給体制の拡充を実施することになりました。

前期から当期にかけては、日本・米国・中国でM&Aおよび生産設備の刷新を実施。完了後には供給能力が従来の約3倍へと大幅に拡大する見込みです。



ライニングタンクの主力生産拠点である台湾バルカー国際



大きな製品であるため、完成品検査は人が入って行います

新興国プラントの発展に貢献 — グローバル展開を続けるSTC —

バルカーは、ベトナム国営石油会社“ペトロベトナム”傘下にある技能教育機関に“STC（シール・トレーニング・センター）”を設置、シールに関する教育プログラムの提供を開始しました。

STCは、プラントの操業や機器の作動に関して高いレベルの安全・安心を求める社会的要請に応えるために立ち上げた、H&S（ハード&シールエンジニアリングサービス）事業の象徴となる施設です。

バルカーが創業来磨き上げ、蓄積してきたシールに関する技術と知見を顧客と共有するための実践的教育カリキュラムを提供し、国内はもとより東アジア、ASEAN各国でも高い評価を得ています。

今回のベトナムでの設置は、経済発展著しい同国のプラント操業に対する環境保全・安全支援活動の一環として実施されたものです。

今後、STCのカリキュラムを修了した皆さまが、ベトナム各地のプラントでリーダーとして活躍されることで、高い水準の安全操業と技能伝承の実現が期待されます。



華やかな開所式からも期待の大きさがうかがえます



現地向けにカスタマイズされたカリキュラムは好評です

広がるスポーツ振興支援 — ボールルームダンス“コリアオープン”協賛開始 —

バルカーは長年にわたりCSR活動の柱の一つとしてスポーツ支援を推進。2014年からは生涯スポーツとして幅広い世代に支持され、また華やかな競技スポーツとして世界各国に多くのファンを持つボールルームダンスの支援に取り組んでいます。

国内ではすでに、最高峰のダンス競技会“バルカーカップ 統一全日本ダンス選手権”を筆頭に、“小・中・高校生全日本チャンピオンシップ”、視覚障害者の全国大会“全日本ブラインドダンス選手権大会”への支援を行ってきましたが、今年から世界のトップ選手が一堂に会する“コリアオープン 国際ダンススポーツ選手権”への協賛を開始しました。

今後もバルカーは、事業とともにCSR活動もグローバル展開を進め、それぞれの国や地域における健全な社会の形成に貢献していきます。



各国の有力選手が競う“コリアオープン”

会社の概況 (2017年9月30日現在)

社 名	日本バルカー工業株式会社 NIPPON VALQUA INDUSTRIES, LTD.
創 業	昭和2年1月21日
設 立	昭和7年4月8日
資本金	13,957百万円
発行済株式総数	18,688,733株
株主総数	9,242名
従業員数	427名 (連結 1,745名)

役 員 (2017年10月1日現在)

取締役

代表取締役社長 兼 C E O	瀧澤 利一
専 務 取 締 役	黒川 清敬
取 締 役 専務執行役員 (CCO)	山根 啓
取締役 (社外)	関 忠行
取締役 (社外)	三木 緑

監査役

常 勤 監 査 役	林 遙
監査役 (社外)	中根 堅次郎
監査役 (社外)	八戸 孝彦

CEO = 最高経営責任者
CCO = 最高コンプライアンス責任者

執行役員

専務執行役員	小田 博志
専務執行役員	小林 健一
常務執行役員	浜田 浩
常務執行役員	青木 睦郎
執行役員	高 昭夫
執行役員	小川 禎
執行役員	椿山 善昭
執行役員	上田 和也
執行役員	谷田部 麻美子
執行役員	朝比奈 稔
執行役員	立田 寛
執行役員	櫻井 慎也
執行役員	藤下 尚彦

株主メモ

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基 準 日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人
および特別口座
管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(ホームページ) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公 告 方 法 電子公告
<http://www.valqua.co.jp/ir/koukoku.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由により
電子公告によることができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部



日本バルカー工業株式会社
NIPPON VALQUA INDUSTRIES, LTD.

〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
TEL : 03-5434-7370 FAX : 03-5436-0560
URL : <http://www.valqua.co.jp/>



※ この報告書は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。
見やすく読みましがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。